

令和五年度

江戸川女子中学校

適性検査型入学試験問題

# 適性検査Ⅰ

注 意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 試験時間は四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 座席番号、受験番号、氏名を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

体験会用

問題は次のページからです。

1 次の文章1と文章2とを読み、あとの問題に答えなさい。

### 文章1

有名な話ですが、発明王のエジソンはあるとき、「あなたはどのようにして1万回も失敗をしたのに諦めなかったのですか？」と記者から聞かれて、こう答えました。

「私は失敗していない。うまくいかない方法を1万通り、見つけただけだ」

彼にとって失敗は「失敗」ではなく、単に「うまくいかなかった方法の発見」にすぎないということです。

一つひとつ試してみてもうまくいかないときにも、「この方法はダメだとわかった」と受け止めて、また次の方法を試してみる。そういう考え方であれば、確かに失敗などありませんよね。

エジソンはこうも語っています。

「失敗すればするほど、我々は成功に近づいている」

諦めさせなければ、方法はいくらでもあるということです。

これは、エジソンやイチローのような著名人に限りません。

私たちの周りにも、それほど有名ではないけれど、自分の夢を叶えている人がいますよね。自分のやりたいことで成功している人たちです。

そういう人をよく見てみると、共通しているものがあるはずですよ。

それは、自分の感覚を信じて、自分の好きなことや自分が大事に思うものをやり続けてきたということです。

彼らは何も特別なことをやってきたわけではなく、「何とも続けてみなければわからない」という前向きな考えを持って、自分を信じてきただけなのです。

自分のパフォーマンスを上げるためには、とにかく失敗を恐れず、やり続けるしかありません。

最初から「どうせムリだ」と諦めるのか、それとも「やってみなければわからない」という希望を捨てずに、やり通せる自分を信じるのか。

自分のパフォーマンスを上げられる人と上げられない人の違いは、ただそれだけの違いではありません。

自分を信じるということは、失敗を繰り返しながらも、いつか必ずゴールに辿り着けるはずだと信じることなのです。

人間というのは不思議なもので、1つのことがうまくいくと、連鎖的に他のこともうまくいくことがあります。

たとえば、思考力が問われるような難しい数学の問題でも、実は決め手となるのは計算力です。

計算力があれば、ある解き方を用いてうまくいかなければ、それほど時間をかけずに別の方法を試すことができます。それがダメならさらに別の方法を試す余裕もある。

何回試行錯誤できるかどうかによって、問題を解けるか解けないかが決まってきますから、思考力が問われるように見える複雑な問題も、実際には計算力が決め手となるのです。計算が速いほど試行できる回数が多くなるからです。

ですから、子どもの頃から計算問題を繰り返し練習して、計算スピードが速い人は、受験には圧倒的に有利です。

計算力というのは数学の力の1つにすぎませんが、それを徹底的に修練することで、数学全体の成績も上がってくるはずです。

このように、1つのことがしっかりできると、そこに余計なエネルギーを使う必要がなくなります。すると別のことに意識を向けることができます、より高度な能力が身についていくのです。

ですから、まずは1つのことを徹底的にやってみることで。

すると、それがどんどん他のことにも波及していきます。

結果的に自分自身のパフォーマンスを上げていくことができるのです。

(和田秀樹「みんなに好かれなくていい」(一部改変)による)

## 文章2

寒いところの人は、ボンヤリしてられない。じっとしていたらこころえ死んでしまうので、とにかくよく働いて、生活を豊かにしなければならぬ。

文明をおこさなければ、苛酷な自然に対抗できない。自然に、勤勉で、堅実で、努力をするようになる。その結果、文化が発達し、経済力もつく。

たとえば、極寒の国アイスランドは食物事情が悪く、とくに野菜などがすくない。栄養的には恵まれているとはいえないけれど、ずっと世界の長寿国の上位を占めつつづけている。

① マイナスのものをどれぐらい経験しているかは、人間としての資質にも関係してくる。経済的に恵まれたところで、なに不自由なく育つのは、一見、いかにも幸せなように見えるが、必ずしもそうではないのである。親からすれば、かわいい子に苦労させたくない。親のそばにおいておきたいと思うのが人情だが、昔の人は、ずっと家で育てることの弊害も知っていて、「かわいい子に旅をさせる」ことで、マイナス経験を積ませようとした。

ところが、経済的に豊かになる一方で、こどもの数が減少したことから、親心が甘くなった。なるべくかわいそうな目にあわせないで、恵まれた環境で育てれば、こどもの幸福になる、と思うようになってしまった。

ここに形式的な教育が一般に普及してくと、なにがなんでもこども

もを学校に行かせたくなる。

こどもを大学に入れたのを、親は、こどものためにいいことだと思っている。しかし、それは「箱入りこども」をつくってしまうことになる。親子ともに不幸である。

「願わくはわれに七難八苦を与えたまえ」

戦国時代の武将、山中鹿介のことはとして知られている。彼は出雲の戦国大名、尼子氏の遺臣で、毛利氏に滅ぼされた主家の再興に努めた尼子十勇士の一人である。自分を鍛えるために、どうか七難八苦を与えてください、と祈願したというのだ。

七難八苦はともかくとして、いまの若い人たちも、多少のマイナス経験は、むしろ自分のためになるものだという認識をもつ必要がある。入学試験や就職活動などは、マイナス経験をを得るための格好の場と考えてよい。

自分の力に見合うかどうかにかかわらず、自分が希望するところに挑戦するのだ。落ちるかもしれない。落ちたら、また挑戦……をくりかえしていくうちに、失敗を恐れない度胸がついていく。負けることにもめげない精神力がつけかわれる。その後の人生で、さまざまなトラブルがおこったときにも、それによって平然と乗り越えていくことができるようになる。

こうして考えれば、苦労や災難も、それほど憎いものではなくなる。「若いときの苦労」も、そんなにいやがることはない。

イギリスの歴史家トーマス・カーライルは言った。

「経験は最良の教師である。ただし、授業料が高い」

知識より経験のほうが、はるかにわれわれを助けてくれる。しかし、そこには、苦難や失敗などのリスクがつきものだ。

(外山滋比古「思考力」(一部改変)による)

〔問題1〕

⑦ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

自分の夢を叶えている人は、どのような考えをしていると説明されていますか。二十字以上三十字以内で **文章1** からぬき出しなさい。

〔問題2〕

① マイナスのものをどれぐらい経験しているかは、人間としての資質にも関係してくとありますが、それはなぜでしょうか。「苦難」「失敗」という言葉を用いて、八十字以上百字以内で説明しなさい。

〔問題3〕

あなたは、今後、物事に取り組むとき、どのような姿勢を大切にしたいと思いますか。あなたの考えを四百字以上四百四十字以内で書きなさい。ただし、次の条件と下の〔きまり〕にしたがうこと。

条件

- ① 第一段落には、**文章1**と**文章2**の要点をそれぞれ簡潔にまとめること。
- ② 第二段落以降は、物事に取り組む姿勢について、〔①〕の内容と関連させて具体的に書くこと。
- ③ 適切に段落分けをして書くこと。

〔きまり〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。
- 、や、や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じように書きます（まずめの下に書いてもかまいません）。
- 。と」が続く場合には、同じまずめに書いてもかまいません。この場合、」で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのまずめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのまずめは、字数として数えません。

